

『白川静先生から学ぶ 成り立ちとつながりでわかる漢字ノート』



※特別仕様につき、カバーのデザインが市販のものとは異なります。

【目次】

目次	
はじめに	4
神さまと漢字「日」について	6
1 人体	
① 耳をすませば、神の声(聖・聴・聞)	8
② 見ること(見・省・直)	10
③ いろいろな「おもい」(思・念・想)	12
④ 手が支える(支・受・反)	14
⑤ 両手で捧げ持つ(共・具・共)	16
⑥ 異なる人(鬼・異・魂)	18
⑦ 人に追いつく「及」(及・級・急)	20
⑧ 自は鼻の形(自・息・息)	22
⑨ 正面を向く人(大・天・立)	24
⑩ 止は足あとの形(止・歩・企)	26
⑪ 食器の前で何を飲む?(即・既・郷)	28
⑫ 口を開いて立つ人(吹・炊・歌)	30
2 自然	
① 虹の竜、空に風を起す(虹・風・空)	32
② 音はすみきっている(音・清・精)	34
③ 草むらの向こうに日が沈む(暮・暮・暮)	36
④ 糸のつながり(率・素・玄)	38
⑤ 勢いよくわきでる力(勇・踊・湧)	40
⑥ 水が流れる(水・永・泳)	42
3 折り・願い事	
① 神さまの大好きなもの(祭・祭・祭)	44
② 目を掲げて持つ(見・祝・祝)	46
③ 矢の至るところ(至・室・思)	48
④ 目を固く守る(古・固・故)	50
⑤ 神さまのお告げを聞く(令・命・鈴)	52
⑥ 玉の力を身につける(場・陽・傷)	54
⑦ ここは神聖なる場所(才・在・村)	56
⑧ 神さまが選ぶ木(新・観・新)	58
⑨ 人知れず祈る(者・都・諸)	60
⑩ 王は「鏡」(王・住・狂)	62
4 人等	
① 分けるもの(分・粉・賞)	64
② 税をおさめる責任(責・積・積)	66
③ 正しいとは何か(正・征・政)	68
④ 生きかえることを願う(還・夜・疾)	70
⑤ 衣に涙する(懐・遠・卒)	72
⑥ 酒をくばる(酒・配・尊)	74
⑦ 農作を祈る舞い(年・委・季)	76
⑧ 糸のつながり(系・係・孫)	78
5 動物・植物	
① 辰は物の動き(振・震・妊)	80
② 羊は神の使い(美・善・祥)	82
③ 皮をはがす(皮・被・披)	84
④ 生はふるとり(集・雇・焦)	86
⑤ 犬が恩返しを守る(突・戻・臭)	88
⑥ 羽が秘めた力(羽・習・翕)	90
⑦ ひょうたんから由(由・油・宙)	92
⑧ 割れて数を増やす倍(倍・削・培)	94
⑨ 草が生える(生・世・葉)	96
⑩ 木になる実(果・課・菓)	98
⑪ 穀物を選り分ける良(良・朗・郎)	100
⑫ 苗木を広く植える(博・敷・薄)	102
6 もの	
① 北の熱いパワー(北・眺・眺)	104
② 其はちりと(基・疾・朔)	105
③ 同じ仲間(同・筒・洞)	108
④ 車の上に立てた旗(軍・運・揮)	110
⑤ くきを打つ(丁・打・頂)	112
⑥ 筆を手にして(書・画・筆)	114
漢字問題 解答	116

【ページ見本】

<p>漢字問題</p> <p>⑤ 夜を告げる鐘の音が聞こえる。</p> <p>④ オリンピックのセイカが会場にどもる。</p> <p>③ 秋の夜は、耳をすまして虫の声をきく。</p> <p>② 講演に多くのチョウシュウが集まる。</p> <p>① 夏休みはケンブンを広める株に出よう。</p> <p>解答欄</p> <p>白川先生のこぼれ</p> <p>『白川静学集』169ページ (1-2に続く)</p>	<p>漢字の「つながり」</p> <p>恥 (はづか) 耳と心の組み合わせ。心にはじることがあると、まじが赤くなり、はじらいが耳に現れるということから、「はじめる、はじ」の意となる。</p> <p>聴 (きこ) もとの字は聰。聖は神さまのお告げを聞くことができる人。その神のお告げをしっかりと理解できることが聡明(さとい)ということ。</p> <p>声 (こゑ) もとの字は聲。聲は石の楽器を打ち鳴らす形。耳に聞こえるその音を聲とつけた。のち、楽器の音から人のこゑに使うようになった。今の字は略体。</p>	<p>1 人体</p> <p>① 耳をすませば、神の声</p> <p>聞 (きこ) モン 耳と心の組み合わせ。古くは、古代文字(甲骨)のように横から見ただ人の上に大きな耳を描いて「きく」という耳の働きを強調した形であった。古代の人は耳には神さまの声を「きく」働きがあると考えていた。のちに、神さまを祭る社の門を加えて、今の聞の形となった。神さまの声を「きく」ことから、やがて、広く耳で音を感じること全般を聞というようになる。</p> <p>聴 (きこ) チョウ 聴のもとの字は聰。聰は耳と王と徳の一部との組み合わせ。王に耳と徳の旁を加え、聡明で徳のある人が神さまの声を「きく」ことができることを表す。そこから「きく」の意味となる。現代では意識して「きく」ことを聴くといっている。</p> <p>聖 (せい) セイ 聖のもとの字は聖。聖は耳と口と王との組み合わせ。王はつま先立ちの人を横から見た形。口は「で」で、神さまへの願い事を入れる器の形。王の上に大きな耳の形をかいて、「きく」という耳の働きを強調した。つま先立って神さまに祈り、神さまのお告げをきくことのできる人を聖といい、聖職者の意味となる。</p>
---	--	--

タイトル	ページ数	仕様	定価	優待価格
	(本文)		(税込)	(税込)
成り立ちとつながりで学ぶ 漢字シート35 第1集	120	B5判	1,100円	990円

※いずれも送料は別。ご注文の冊数により、最安値の郵便または宅配便料金でお送りします。

お申込み後 1 週間から 10 日を目途に発送いたします。在庫がなくなった場合は、その時点で「事務局からのお知らせ」にてお知らせします。

代金は後払いとします。請求書を後日お送りしますので、指定振込先にお支払いください。振込手数料はご負担ください。

お申込み方法

以下の注文予約フォーム(共通フォーム)にて必要事項を記入し、送信してください。

<https://ws.formzu.net/dist/S54321018/>

『成り立ちとつながりで学ぶ漢字シート 35』

第1集・第2集は残部僅少、第3集は販売終了です。

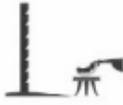


【第1集 目次】

目次

はじめに	「神さまと漢字」(日(さい)について)	祭・祭・祭	1
1 「神様の大好きなもの」	「ひょうたんから由」	由・油・宙	2
2 「ひょうたんから由」	「狂」の意「空に風を起す」	虹・風・空	3
3 「狂」の意「空に風を起す」	「日(さい)を掲げて拜む人」	兄・祝・呪	4
4 「日(さい)を掲げて拜む人」	「分けるもの」	分・粉・貧	5
5 「分けるもの」	コラム①「鬼の話」		6
6 「税金をおさめる責任」	「戦う人たち」	武・戦・兵	7
7 「戦う人たち」	「兆の熱いパワー」	兆・跳・挑	8
8 「兆の熱いパワー」	「主は直立する」	主・柱・住・注	9
9 「主は直立する」	「正しいとは何か」	正・征・政	10
10 「正しいとは何か」	コラム②「弓 矢の話」		11
11 「青はすみきつている」	「神様の思いをはかる「ケン」」	青・清・精・静	12
12 「神様の思いをはかる「ケン」」	「見ることの力」	見・看・省・直	13
13 「見ることの力」	「辰は蛤の動き」	振・震・娠	14
14 「辰は蛤の動き」	「羊は神の使い」	美・善・祥	15
15 「羊は神の使い」	コラム③「日を守る」		16
16 「日を守る」	「士は小さな鏡」	士・仕・吉	17
17 「士は小さな鏡」	「其はちりとり」	期・旗・基	18
18 「其はちりとり」	「復はひっくりかえす」	復・複・腹	19
19 「復はひっくりかえす」	「モンのおこうに「どう」」	問・聞・関	20
20 「モンのおこうに「どう」」	「割れて数を増やす倍」	倍・割・培	21
21 「割れて数を増やす倍」	コラム④「「優」について」		22
22 「「優」とは何か」	「芸(藝)とは何か」	藝・芸・勢	23
23 「芸(藝)とは何か」	「同(じ)仲間」	同・筒・洞	24
24 「同(じ)仲間」	「神さまはまねく」	招・照・紹	25
25 「神さまはまねく」	「右手にミミズク」	暮・暮・獲	26
26 「右手にミミズク」	「草むらの向こうに日が沈む」	暮・暮・漢	27
27 「草むらの向こうに日が沈む」	コラム⑤「「陽」について」		28
28 「陽」について	「矢の至るところ(1)」	至・到・致	29
29 「矢の至るところ(1)」	「矢の至るところ(2)」	至・到・致	30
30 「矢の至るところ(2)」	「扇は片開きの編み戸」	編・遍・偏	31
31 「扇は片開きの編み戸」	「糸のつながり」	率・素・玄	32
32 「糸のつながり」	コラム⑥「秋という字に火があるのはなぜだろう」		33
33 「秋という字に火があるのはなぜだろう」	「サイの差異」	我・裁・載・裁	34
34 「サイの差異」	「木の上の実をとる」	採・菜・彩	35
35 「木の上の実をとる」	「月」はきれいに飾られた厩」	周・週・彫	36
36 「月」はきれいに飾られた厩」	「コン」は呪いの目」	思・念・想・懐	37
37 「コン」は呪いの目」	「いろいろな「おもい」」		38
38 「いろいろな「おもい」」	コラム⑦「耳にまつわる話」		39
39 「耳にまつわる話」	編集後記		40
40 編集後記			41
41			42
42			43
43			44

【ページ見本】

<p>① 春のサイレイが行われる。</p> <p>② 事故の原因をサイサツする。</p> <p>③ 人の欲望にはサイゲンがない。</p> <p>④ 危険をサツチする。</p> <p>⑤ 文化のサイテン。</p>	<p>サイ</p> <p>際</p> <p>際</p>	<p>サツ</p> <p>察</p> <p>察</p>	<p>サイ</p> <p>祭</p> <p>祭</p> <p>まつり</p>	<p>1</p> <p>神様の大好きなもの</p> <p>「 祭 察 際」</p>
				
	<p>「際」は「水」と「祭」どの組み合わせ。多(マ)は神が天にのぼり降りるときに使うはしのこと。その前に祭壇を置いて神様と御祭りする。そこは天から降りてくる神様と人との接する神聖な場。そこから人は何人も立ち入ることがゆるされない。どろどろの場所であることから「さわ・境目」を表す。</p>	<p>「察」は「心」と「祭」どの組み合わせ。「祭」は祭りをを行う建物の屋根のこと。祭りの中で神様の心を察しはかるので「察する」という。「察」は「心」が「祭」(祭壇)に、あきらかにする(心懸)かんがえる(察察)などの意味で用いる。</p>	<p>「祭」はお祭りの台の上に右手で神様の大好きな肉を置く形。肉は「夕」の形を表す。貴重で大切な肉を供えて神様に頼む事を聞いてもらう儀式が「祭」である。頼む事に神様が何と答えてくださるか。それを「まつ(待)」のが日本語の「まつり、まつる」の語源と書われている。</p>	
<p>これは何の字?</p> 				

タイトル	ページ数	仕様	定価	セット注文価格
	(本文)	A 4 判	(税込)	(税込)
成り立ちとつながりで学ぶ 漢字シート35 第1集	44	右綴じ横型	660円	1,100円
成り立ちとつながりで学ぶ 漢字シート35 第2集	44	右綴じ横型	660円	
合計			1,320円	

※いずれも送料は別。ご注文の冊数により、最安値の郵便または宅配便料金でお送りします。

お申込み後 1 週間から 10 日を目途に発送いたします。在庫がなくなった場合は、その時点で「事務局からのお知らせ」にてお知らせします。

代金は後払いとします。請求書を後日お送りしますので、指定振込先にお支払いください。振込手数料はご負担ください。

お申込み方法

以下の注文予約フォーム(共通フォーム)にて必要事項を記入し、送信してください。

<https://ws.formzu.net/dist/S54321018/>